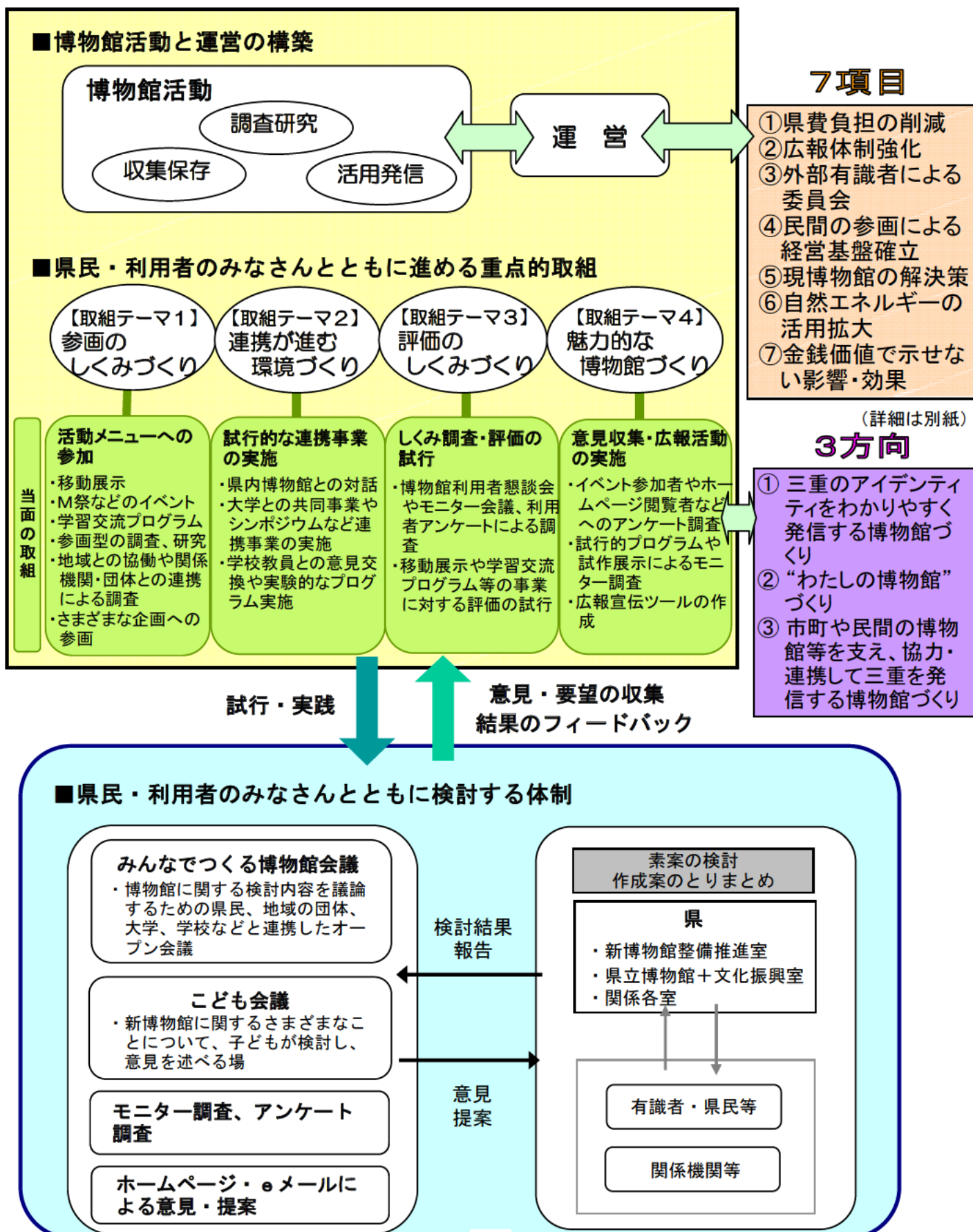


新県立博物館整備にかかる「3方向」「7項目」の位置づけについて

新県立博物館の整備については、「新県立博物館 事業実施方針(平成21年3月)」に基づき進めてきた取組に、今後は、知事が示した「3方向」を反映させて作り込んでいきます。あわせて、これらと連携させながら、「7項目」への取組を進めます。



【知事が示した3つの方向性】

① 三重のアイデンティティをわかりやすく発信する博物館づくり

博物館のもつ資料や情報などを、単に大きさや希少さを競うのではなく、県民が今後生きていくために、三重の何を心に刻めばいいのか、その背景や成り立ち、価値などをストーリーとして、わかりやすく、提示・発信する博物館をめざす。

② “わたしの博物館”づくり

一部の人が利用する博物館ではなく、遠くに住む人にとっても身近で、多くの県民が自分の博物館として日常的に繰り返し利用する博物館づくりを進める。このために、キーワードを「参加・参画」とし、①まず来てもらう、②“博物館ってこんなことができる”ことを知ってもらう、③一人ひとりが共鳴できる接点をたくさん用意する、④一人ひとりが“わたしの博物館”と思える取組と運営を行う。

③ 市町や民間の博物館等を支え、協力・連携して三重を発信する博物館づくり

新博物館は、県内の市町や民間の博物館等との協力・連携のもと、各地の良さを束ねて、さらに大きな独自性へと高め、発信していく役割を果たす。このため、個性ある県内の博物館等の魅力をさらに高め、各館の資料保存や展示活動等の技術的支援、市町に人材がいない専門分野を支援するとともに、これらの館と協力・連携して三重を発信するための体制を構築する。

【知事が示した7項目】

- ① 総事業費を含めた支出の節減努力を不断に行う。段階的な増収も盛り込んだ収入計画を立案し、年間の運営費4億5千万円に対する県費負担について、2割程度削減すること
- ② 入館者増、企業からの寄付などの収入増を実現するため、広報体制を強化すること
- ③ 外部有識者による委員会（「経営向上委員会（仮称）」）を立ち上げ、第三者の視点から博物館事業の経営面などについて評価し、改善していくための仕組みを早期に導入すること
- ④ 多様なアイデアをもとに民間の参画による経営基盤の確立をはかること
- ⑤ 現博物館について県費負担をかけないような解決策を示すこと
- ⑥ 自然エネルギーの活用について、当初計画よりも一層拡大すること
- ⑦ 金銭価値では示せない社会への影響・効果を明示し、それらへの取組状況を確認するための評価と改善のしくみをつくること

（平成23年6月3日発表）